

## 陳情書参考資料

### 文部科学省ホームページ掲載「エコミュージアムの発展的定義」

- 1 エコミュージアムは行政と住民が一緒に構想し、運営していくものであり、行政は専門家と施設や資金を、住民は知識と能力を提供しあって作り上げていくものである。
- 2 エコミュージアムは居住する地域の歴史・文化・生活などを理解して住民が自らを認識する場であるとともに、来訪者に自らが生活する地域を理解してもらうための場でもある。
- 3 人間は伝統的・産業社会の中でも自然と関わって生活してきており、それを理解する場所がエコミュージアムである。
- 4 エコミュージアムは先史時代から現在に至るまでの時間の流れの中で人々の生活を捉え、未来を展望していくものである。しかし、エコミュージアムは未来を決定する機関ではなく情報と批評的分析の役割を果たすところである。
- 5 エコミュージアムは歩いたり、見学することができる恵まれた空間である。
- 6 エコミュージアムは外部研究機関と協力しながら地域研究に貢献し、その分野の専門家を育成する「研究所」である。
- 7 エコミュージアムは自然遺産や文化遺産を保護し、活用を支援する「保存機関」である。
- 8 エコミュージアムは地域研究や遺産の保護活動に住民の参加を促し、将来、想定される地域の様々な問題に対し理解を深めるための「学校」である。

### 県内事例

平塚市金目まるごと博物館

[https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/kyoiku/page-c\\_01235.html](https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/kyoiku/page-c_01235.html)

日吉の森庭園美術館

<http://hiyoshinomori.com/about.php>

城山エコミュージアム

<https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kurashi/kyouiku/1010057/1010060/index.html>

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館

[https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/bunka\\_rekishi/hakubutsukan/index.html](https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/bunka_rekishi/hakubutsukan/index.html)

### 私たちが提案する歴史と植生を活かした季節と物語のある「水と緑の時空エコミュージアム」

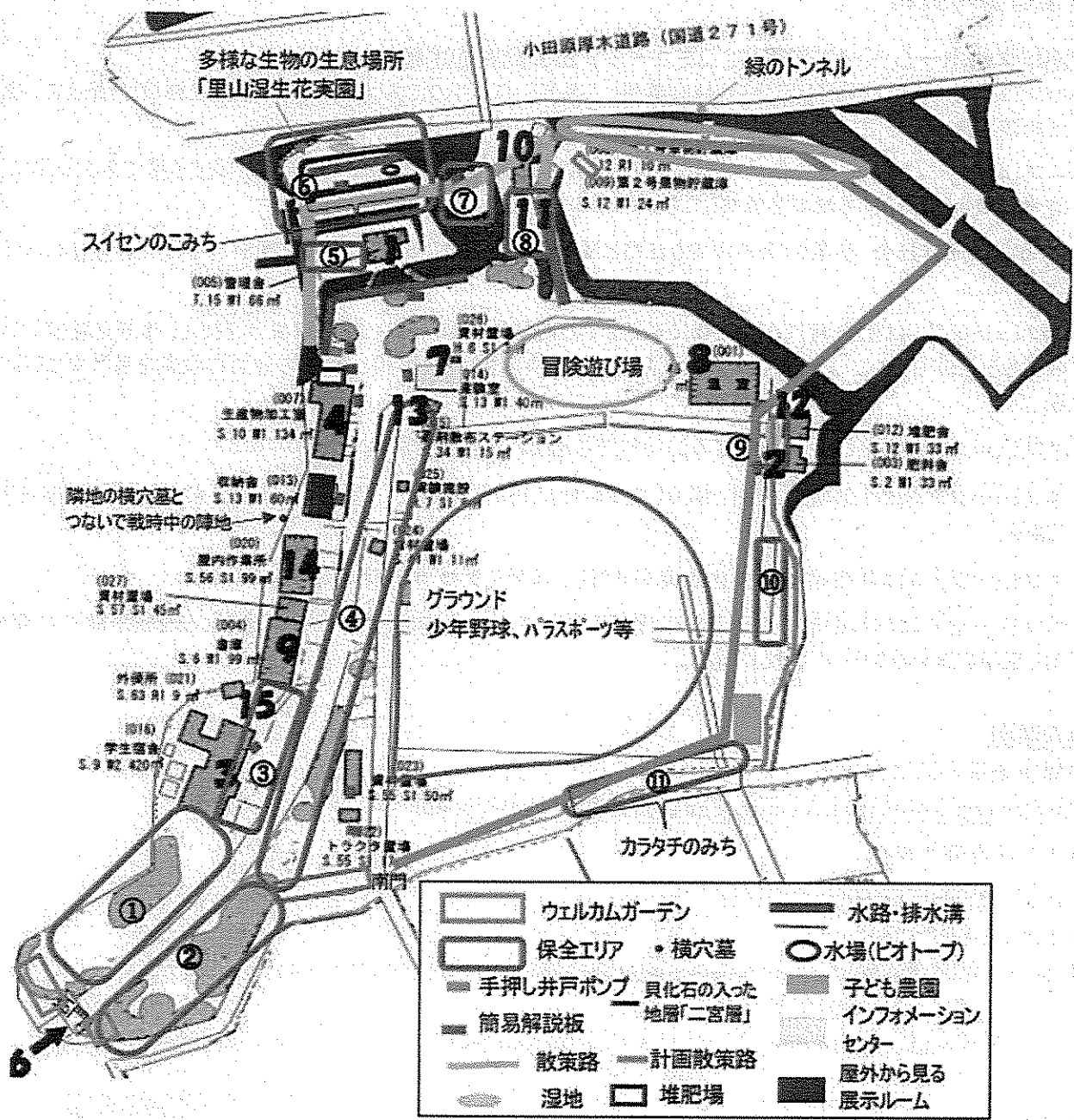
地層「二宮層」、横穴墓、近代建築物を修景として、活かす植栽をし、私たちが種を蒔き、挿し木などで栽培した苗や町民等から提供していただいた苗や球根を植えつける、跡地内の廃材を活用していくなど、費用をかけず、跡地への関心を高める方法で整備していきます。

近代建築物、地層「二宮層」、水路、手押し井戸ポンプ、季節の花の紹介など簡易解説板を設置するとともに、樹木や野草に名札を付け跡地への興味を高め、二宮や跡地の歴史や自然を学べるようにします。また、将来的には体験学習の場として活用できるようにしていきます。

そして、跡地にいると歴史や文化が感じられ、太古からの長い営みの中で自分が存在する奇跡、今自分がここに存在することが未来につながる生きることの喜びの体感、さらに自分の成長も記すことができる空間を作ります。テーマは「共育」。

跡地を核として地域の魅力を掘り起し、町歩きツアーなどで伝え、二宮らしい物語を紡いでいきます。

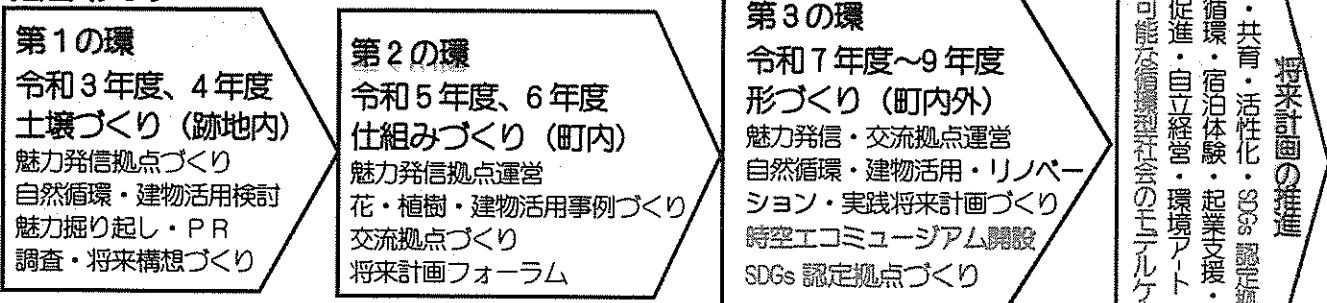




**保全エリアの主要な樹木や野草**

保存エリア①ウメ、ヤマモモ、サトサクラ、オドリコソウ ②クロガネモチ、オオカナメモチ、ヤブカンゾウ ③アメリカデイゴ、ハシラサボテン、アツバキガヨラン、ノアザミ、コウゾリナ、ヒメフズ、オオアマナ、カラムシ ④ロベルメープル、ヒヨクヒバ、サトサクラ、ウメ、イスノキ、タラヨウ ⑤アバマキ、タシロラン ⑥クサギ、ノイバラ、セリ、アキノノゲシ、ノカンゾウ、ヤブニンジン、イヌガラシ、ヨメナ ⑦ハツサク、イチヨウ、キツネノカミリ、ヤブラン、シャガ、ナツノタムラソウ ⑧ボポー、モミジ、クマザサ ⑨フジ、オドリコソウ、セリ、ジュズダマ、ヤマキツネノボタン、ミノソバ、ヨメナ ⑩フェイスヨア、ヨメナ ⑪カラタチ

**推進ステップ**



将来計画への引継ぎ・実践中継

**将来計画の推進**  
 交流・共有・活性化・SDGs認定拠点運営  
 経済循環・宿泊体験・起業支援・援農・  
 定住促進・自立経営・環境アクト  
 持続可能な循環型社会のエコルケース

令和4年8月29日

二宮町の魅力づくりの核となる東京大学果樹園跡地の将来の方向性と  
そのための近代建築物の活用を求める陳情説明

二宮町議会議長  
善波 宣雄 様

陳情者 二宮町二宮 1931-3  
まちづくり工房「しお風」及び二宮遊学の衆  
代表 神保智子

【陳情趣旨】

3月議会への陳情を採択していただき、ありがとうございます。しかし、まだ陳情項目の実現への道は閉ざされたままです。審議の中でも私たちの将来への考えを明確にすべきというご意見もいただきましたので、今回は提案をし、具体的な展開への動きを作れたらと再度東京大学果樹園跡地についての陳情を行いました。

私たちは東京大学果樹園跡地が持っている自然や歴史・文化資源などの魅力的な地域資源の掘り起しと保全、魅力を伝えながら、この地域資源を減じることなく、町が今後決定する将来計画の実現に向けて、円滑に移行したいと考えております。

東京大学果樹園跡地は、二宮の大地の成り立ち、横穴墓からの貴重な出土品から古代から栄え、近代も国の経済の頭脳的存在だった人の別荘が構えられ、その後も東京帝国大学を誘致し、産学遺跡、戦争の遺構、そして自然や水の豊かなアカデミックな所で、二宮の郷土を知る絶好な場所。また、持続可能な循環型社会のモデルケースともなり、SDGsについて学び、実践していく場所としても有効な場所です。

まちづくり工房「しお風」が再生活動の提唱、情報拡散、昨年3月に発足した二宮遊学の衆が現場で具現化を担い、昨年度からテーマに沿った定期的な町歩きツアー、樹木や横穴墓の現状確認、近代建築物や地層、植生など様々な調査、果樹や野草等の保全、花壇等の再整備、手押し井戸ポンプの設置と井戸から池へと続く水路の発掘と再生、それらをつなぐ散策路の整備、簡易解説板の設置などを実施し、現在奥の水路と湿地のある棚地で多様な生物の生息場所の整備を進めています。

こうした中で5月下旬から6月にかけて沢蟹、ヤマアカガエル、カワニナの生息確認、6月29日に環境省のレッドリストの準絶滅危惧種に登録されたタシロランも発見しました。

こうした私たちの実践を通して分かった跡地の特徴は、次の通りです。

- ① 様々な種類の果樹が現存
- ② 東京大学果樹園時代に積極的に外来種を植えたこともあり、樹木も野草も固有種と外来種が共存
- ③ 季節の移ろいに合わせて、葉、花、実が彩ります。
- ④ 二宮の大地の成り立ちからその後の発展がわかる様々な時代の遺跡が現存
- ⑤ 湧水、池、水路、湿地など水の豊かな場所
- ⑥ 東京大学二宮果樹園が大正15年から平成20年まで82年間開園していたアカデミックな場所

⑦東京帝国大学が東京に近く、しかもみかんの経済的栽培が可能という国策としての産業振興と二宮が特産品として産業振興させようということから誘致し、その遺構が現存する産業遺跡として貴重な場所

そして、活用コンセプトは「子どもと共に大人も楽しみ学べる場」です。

活用コンセプトと跡地の特徴から、私たちなりの跡地のプランニングもしています。

多様な生物が補完し合って共に成長。人も自然も建築物も共に調和し、二宮の歴史や文化、生物を人はここで学びながら成長する。そして、人が成長することで保全が進む持続可能な社会のモデルケースが作れたらと考えました。

このようなことから、跡地内に簡易解説板や樹木や野草の名札を設置しながら、散策路、ビオトープなど多様な生物の生息場所も整備し、郷土を知る「水と緑の時空エコミュージアム」づくりを進めようとしています。

エコミュージアムは文部科学省が提唱している事業で、陳情参考資料の「文部科学省のホームページ掲載エコミュージアムの発展的定義」をご覧くださいとわかるように、「ハコモノ」づくりとは違い、地域とその自然、文化、歴史、さらには先史以前から現在までの時間の流れ、そして未来の展望などすべてを対象とした、自由で柔軟な博物館の仕組みづくりです。

エコミュージアムとは「ある一定の文化圏を構成する地域の人の生活と、その自然、文化および社会環境の発展過程を史的に研究し、それらの遺産を現地において保存、育成、展示することによって、当該地域社会の発展に寄与することを目的とする野外博物館」と定義づけられています。

その運営は、住民参加を原則とし、普通の博物館と違って対象とする地域内にコアと呼ぶ中核施設(情報・調査研究センター)と、自然・文化・産業などの遺産を展示するサテライト(アンテナ)、新たな発見を見い出す小径(ディスカバリートレイル)などを配置し、来訪者が地域社会をより積極的に理解するシステムで行われています。

日本では、エコミュージアムの持つ「まちづくり」の効果が重視されています。それは、生活の舞台である地域と個々の住民の生活とが絶縁した状態が一般化している現代において、「地域を知る」というエコ・ミュージアムの根源的な要素が住民の地域への愛着を醸成し、住民の地域社会への積極的な参加を促すことにつながると共に、交流人口も増やし、コミュニティツーリズムなどで活性化にもつながると考えているからです。

陳情参考資料のように県内でも取り組んでいる市町があります。

二宮町は消滅可能性都市で、コロナ、地球の存亡に係る世界情勢の不穏さの加速により自治体経営が危機的な状況に陥る懸念もあります。その中で地方創生するには、「居たいと思わせる他にはない魅力的な自治体」にすることが重要だと思います。

二宮町の豊かな歴史や自然を生かし、跡地を核とした二宮町の独自の魅力を創りあげ、伝えることは町民の心も財産も豊かにし、地方創生の重要な潜在資源となります。

跡地には東京大学果樹園跡地活用協議会の遊学文化部会として、敷地の整備に関わることはできますが、建物の活用について関わることは難しい状態です。

跡地を交流拠点、町の情報発信拠点として行くために、建物の一部を開放し、インフォメーションセンター(情報・調査研究センター)と屋外から見る展示ルーム(サテライト)としての活用を考えています。

こうして施設が活用されることで、町の魅力の情報発信力が増し、交流人口が増え、協力や連携するボランティアはもちろん民間や専門家も出てくると思います。

町は建物活用と言うと高額な経費が掛かると断念し、様々な方法を検討することをしていないように思います。二宮町の住民力を高く評価している町であるからこそ、活用を模索することで新たな活路を見出すことができると思います。

このようなことから、ビジョンや信念を持たずに現状のまま何もせずに、二宮町独自の魅力を失うことを防ぐために、下記の項目を陳情いたします。

【陳情項目】

1. 今回私たちが提案した郷土を知る「水と緑の時空エコミュージアム」づくりを踏まえながら、地域創生につながる二宮町の魅力づくりの核となる東京大学果樹園跡地の将来の方向性を住民参画で早急に明らかにすることを求めます。
2. 旧実験室をインフォメーションセンター(情報・調査研究センター)として収集や研究した情報の保管整理、案内展示、旧収納舎(サテライト)を屋外から見る展示ルームとして開放し、活用していくことを求めます。

跡地の持つ自然や歴史・文化資源などの地域資源が減ることなく、その資源の掘り起しと保全、魅力を伝えながら、町が策定する将来計画へ円滑に引き継げるように、水と緑の時空エコミュージアムづくりを提案し、陳情参考資料の推進ステップをご覧いただくとわかるように、令和5、6年度の建物活用事例とするために、足掛かりとして近代建築物2棟の解放を求めています。

これらの動きは東京大学や横須賀自然・人文博物館が収蔵する諏訪脇横穴墓から出土した貴重な埋蔵文化財を地元で公開する足掛かりにもなっていくと思います。

以上